

《入間市長賞》

税金と社会保障制度の関係について

黒須中学校 二年 坂下 千晴

まずはじめに、「税金」とは国や都道府県、市区町村で私達が健康で文化的な生活を送るために、個人ではできないさまざまな公共サービスなどの仕事をしています。その費用は、国民みんなで納めています。納められた税金は警察、消防、救急など安全な暮らしに欠かせない活動や道路、公園の整備、ごみの処理などの快適なくらしに欠かせないサービス、他にも日々の日常を豊かにするために欠かせない介護や教育などに変化します。

私は今まで増税することの意味が分からず、正直、増税に対して良いイメージを持っていませんでした。しかし、税と社会保障の関係について知り、増税に対するイメージが大きく変わりました。社会保障とは先ほどと同じで、医療、年金、介護、福祉などの公的サービスのことです。今、この国では少子高齢化が進んでいて、社会保障の費用が増えていくという問題とその費用を負担する働き手が減っているという問題があり少子高齢化が進んでいくにつれ、保障費が必要になっていき増税をしなければならぬという関係があります。少子高齢化が進んでしまっている以上、保障費が必要になるから増税されることは仕方がないことだ

と感じました。高い税を納得して納めるといふ人は少ないと思います。しかし、デンマークという国は食料品を含む消費税率が、二十五パーセント、所得税も四十から六十パーセントと給料の三分の一以上を占める世界一税金が高い国ですが国連による「世界で最も幸せの国」ランキングでは第一位だそうです。その理由は社会保障が充実し、貧困格差が少なく、個人の自由度や政府に対する信頼度が高いからだそうです。このことから日本も以上のデンマークのように貧困格差をなくすなどをし、政府に対する信頼度も高くなるように、見習えば理解してくれる人が今より増えるのではないかと思います。

増税などによる政府へのイメージを少しでもなくすために私たち中学生も、将来社会に出ることを考え、税金についての意識を高める必要があると感じました。正しく税金を納めることは市民としての責任であると改めて考えました。税金の使い道によって社会が変わることを理解し、社会に貢献していきたいと思います。税金について改めて調べる機会ができ、税金について今までより知ることができてよかったです。これから社会の授業や自主学習などを通して税金について調べてみたいと思いました。